

出題分析		
試験時間 60分	配点 100点	大問数 4題
分量 (昨年比較) [減少 <span style="border: 1px solid black;">同程度</span> 増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化 <span style="border: 1px solid black;">同程度</span> 難化]	
<p><b>【概評】</b></p> <p>例年通り大問4つで構成され、設問数も昨年と変わらなかった。出題形式については、全問マーク式という点は例年と同じだったが、昨年に比べて正誤判定問題がやや減少し、リード文中の空欄補充問題を中心としたシンプルな出題であった。各時代から満遍なく出題されたが、例年出題されていた文化史を中心とした大問はなくなった。歴史総合を意識して日本史関連の出題がみられたとはいえ、正誤判定問題が減ったうえに大半は標準的な内容であったため、全体的な難易度は昨年並みといえる。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	仏教經典の歴史	標準的な設問が多かったので、確実に得点したい。(3)：サンスクリット語は、もとはバラモンの日常語であった。(4)：『西遊記』のほか、『三国志演義』・『水滸伝』・『金瓶梅』をあわせて四大奇書と呼ぶ。(5)・(6)：五胡十六国時代に西域から来た仏僧として、鳩摩羅什と仏図澄が代表的である。いずれも亀茲出身であることも覚えておきたい。(8)：リード文中の「最澄」より天台宗だと判断できる。	やや易
II	幕末から明治の日本と諸外国	(4)：三国干渉は日清戦争後の1895年であり、ドイツ＝フランス戦争(プロイセン＝フランス戦争)後であるため、当時のフランスの政体は第三共和政だと判断できる。(B)：南京条約で開港されたのは、北から上海・寧波・福州・厦門・広州の5港であるため、下線部③は誤り。天津や漢口など11港が開港したのは北京条約である。(C)：下線部⑤は膠州湾が正しい。広州湾を租借したのはフランス。	やや易

III	東アジア・東南アジアの戦後史	新課程移行に伴い、(8)・(9)・(14)・(15) など歴史総合を意識した日本史関連の出題が目立った。(9)：(ウ)の岸信介内閣は日米新安保条約(日米相互協力及び安全保障条約)を結んだ1960年に総辞職した。(12) アメリカ合衆国の大統領補佐官キッシンジャーと中国の首相である周恩来の会談が行われた結果、翌年のニクソン訪中が実現した。(15)：(ウ)の日中平和友好条約は福田赳夫内閣の1978年に結ばれた。	やや難
IV	中世ヨーロッパ史	(1)：やや難問。フン人はヴォルガ川、さらにドン川をこえてヨーロッパに進出した。(6)の正答がドニエプル川だとわかれば、語群をもとに消去法で判断することも可能。(12)：普遍論争における実在論者はアンセルムスが有名である。なお、選択肢(シ)のアベラールと(ヌ)のウィリアム＝オブ＝オッカムは代表的な唯名論者として覚えておきたい。(14)：ドミニコ修道会のほか、フランチェスコ修道会も代表的な托鉢修道会である。(15)：カール大帝のイスラーム討伐を題材とした騎士道物語は、『ローランの歌』である。	標準

#### 合格のための学習法

関西大学の入試世界史では、基本的な知識で解答できる設問が大半であるため、ケアレスミスによる失点がないように注意する必要がある。標準レベルの設問を素早く解くことができれば、正誤判定問題や難問に対処する時間を確保することができる。判断が難しい設問に直面しても、動揺せずにリード文や他の設問文の情報などをヒントにし、消去法も用いて正答を導けるようにしよう。また、日程によっては、文化史を中心とした大問が出題される場合がある。さらに、地理に関する問題が出題されることもあるため、資料集や教科書の地図を積極的に活用し、国や都市だけでなく川や山脈などの位置も正確に把握しておきたい。本日程のように、歴史総合からの出題が今後も続く可能性があるため、日本史関連の内容にも注意を払っておきたい。